

令和5年度全国地域リーダー養成塾修了者研修会 開催案内

- 1 目的 修了者対象の事後研修を実施することにより、自己啓発や情報交換を図り、地域リーダーとしての資質向上を支援する。今年度は特別講義を除き、現地開催とする。
- 2 日時 令和5年9月28日(木) 13:30~13:50 受付
14:00~17:30 分科会
17:30~19:30 交流会
令和5年9月29日(金) 9:30~11:30 特別講義
- 3 場所 アルカディア市ヶ谷(私学会館)
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
TEL(03)3261-9921
- 4 対象 リーダー塾修了生、第35期塾生
- 5 分科会
(1) 分科会数 7分科会
(2) 人数 各分科会10~20名程度
※希望者が多い場合は調整いたします。
(3) テーマ及び講師 別紙のとおり
- 6 特別講義 ※オンライン(Zoom)開催あり
(1) 講師 有限会社宮川洋蘭代表
くまもと☆農家ハンター代表
宮川 将人 氏



(2) プロフィール

宮川 将人 (みやがわ まさと) 氏

花農家三代目(有)宮川洋蘭 代表取締役。東京農業大学卒、アメリカ研修ののち、戸馳島に帰郷。サイバー農家として洋蘭をネット販売で拡大させる中、2016年に農家仲間と「くまもと☆農家ハンター」を立ち上げ、活動を開始。「畑と地域は自分たちで守る」をスローガンに、ICTを駆使しながら鳥獣対策を講じたことで農作物被害や住民との接触が激減。農村の持続性を脅かすイノシシ、シカ、カモなど増え続ける鳥獣被害に対して、解決策を見出すため2019年に(株)イノPを起業。民設民営のジビエファームを開設し、サステナブルな獣害対策モデルを構築。住民主体の活動の意義を全国に波及させている。

第40回ふるさとづくり大賞「総務大臣賞」受賞。TV番組「情熱大陸」出演。

好きな言葉「微力でも無力じゃない」「返事はYESかハイ！」

(3) テーマ

「地域と畑は自分たちで守る」～農家ハンターイノ☆バージョン～

- 7 申込方法 参加申込書に必要事項を記入し、メール・FAX・郵送等で事務局へ提出してください。
- 8 交流会 参加者負担3,000円
※参加希望者には連絡文書送付(8月上旬予定)の際に、振込方法を通知いたします。
- 8 宿泊 宿泊施設は各自で手配をお願いいたします。

別紙 分科会のテーマ及び講師（敬称略）

分科会	テ ー マ 及 び 講 師	
第1分科会	テーマ 講 師 パネリスト メッセージ	歴史を活かしたまちづくりの手法 西村 幸夫（塾長、國學院大學観光まちづくり学部長・教授、 東京大学名誉教授） 下仲 隆浩（小浜市役所 文化観光課長） まちのストックをいかに活かすかはこのところ、まちづくりの大きな柱になってきています。かつてのフローを追い求めるような施策ではなく、今ある資産で前に進むような物語を描き出すこと、そこから始まるまちづくりの手法を、皆さんと一緒に考えたいと思います。 ゲストは、そうしたことを市としても、そしていち職員としても長年実践してきておられる小浜市の文化交流課長の下仲隆浩さんです。下仲さんのお話を伺うなかで、自分たちのまちでもさらにやれることがあるのではないかということをもそれぞれが見つけなおしていく機会にしたいと思います。
第2分科会	テーマ 講 師 パネリスト メッセージ	水源地の村づくりから学ぶ 宮口 侗迪（旧主任講師、早稲田大学名誉教授） 尾上 忠大（公益財団法人 吉野川紀の川源流物語 事務局長） 7～12期、15～18期主任講師の宮口です。もう遠い過去になりましたが、塾生との付き合いは続いており、生きがいの一つになっています。分科会では奈良県川上村の森と水の源流館事務局長の尾上氏を招いて、紆余曲折の後大きなダム建設を受け入れた村の、水源地の村づくりの意義について意見交換したいと思っています。
第3分科会	テーマ 講 師 パネリスト メッセージ	地方議会と地域活性化 田村 秀（主任講師、長野県立大学教授） 渡部 一樹（喜多方市議会議員） 地域活性化に関しては、議会は予算や政策のチェックという役割だけでなく、時に議員自らが政策の提案をするなど様々な関係性を持っています。分科会では、41歳にして、5期目となる福島県喜多方市議会議員を講師に招き、議員は自治体に取り組む地域活性化の事業に対してどのように見ているのかなど、本音で地方議会と地域活性化のあり方を語り合います。
第4分科会	テーマ 講 師 パネリスト メッセージ	人口減少時代の地域コミュニティと中間支援 大杉 覚（主任講師、東京都立大学教授） 戸田 幸典（特定非営利活動法人丹波ひとまち支援機構（たんえん） 代表理事） コロナ禍を経て地域コミュニティが直面する困難はより厳しく深刻化しています。丹波市をはじめ多くの地域に関わり、地域コミュニティの中間支援の実践に携わってこられた戸田幸典さんをお迎えして、これから地域コミュニティのあり方を参加者と一緒に考えていきたいと思っています。

分科会	テ ー マ 及 び 講 師	
第5分科会	テーマ 講 師 パネリスト メッセージ	<p>「当事者の声」と自治体：板挟みの再犯防止計画 土山 希美枝（主任講師、法政大学教授） 自治体の再犯防止計画策定担当者または再犯防止政策に民間の立場でかかわった担当者（調整中）</p> <p>国や自治体が策定する（政策・制度）は、「これはいいことのはず」という先入観と思い込みを基盤に、当事者や課題に向かい合わず策定されることもある。また、テーマによっては、他の市民からとりくむことが好まれない施策もある。そうした、さまざまな主体の間で考え、政策をかたちづくることの模索を共有する。参加者同士が意見交換する時間を設定する予定です。</p>
第6分科会	テーマ 講 師 パネリスト メッセージ	<p>公民連携を最前線で地域実装する 野原 卓（主任講師、横浜国立大学大学院准教授） 三谷 繭子（株式会社Groove Designs 代表取締役、認定NPO法人 日本都市計画家協会理事、一般社団法人アーバニスト理事）</p> <p>地域づくりを持続的かつ豊かなものとしてゆくためには、地域の人々が主体的かつ積極的に関りながら、様々な立場から地域づくりが推進されてゆく必要がありますが、これを実現するのは、案外、簡単なことではありません。しかし、全国では、新たな技術や方法を用いて、新しい参画の仕方も検討されています。今回は、新たな方法を用いた市民参画の最前線について、多くの実験的取り組みに関わっておられる講師（三谷繭子さん）とともに考えていきたいと思えます。</p>
第7分科会	テーマ 講 師 パネリスト メッセージ	<p>「グリーン・ツーリズム再考—ポストコロナの農村再生に向けて」 関司 直也（主任講師、法政大学教授） 田村 隆雅（認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク チーフディレクター）</p> <p>農村再生の手段として注目された「グリーン・ツーリズム」も、国が政策に掲げて30年を経て、政策上は姿を消しています。しかし、岩手県遠野市では、この考え方を遠野の暮らしに落とし込み、愚直に、また本質を捉えて、グリーン・ツーリズムを農村再生の軸に据え続けてきました。そこで本分科会では、認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワークの田村隆雅さんをゲストにお迎えして、遠野の実践プロセスと今後の展望に学びながら、改めてグリーン・ツーリズムの役割や勘所を見つめ直したいと思えます。</p>